

【古典文法 助動詞「たり」識別①】

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

① と言ふに、猛く思ひつる造麻呂も、物に酔ひたる心地して、うつぶしに伏せり。（竹取物語）

② わづかに一人二人なり。朝に死に、夕べに生まるるならひ、ただ水の泡にぞ似たりける。（方丈記）

③ 何と言ふべき言の葉もおぼえぬに、折しも、ゆふつけ鳥声々に鳴き出でたりけるに、（今物語）

④ 父たらずと言ふとも子以て子たらんばあるべからず（平家物語）

⑤ やうやう白くなりゆく、山ぎは少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。（枕草子）

⑥ 聞こえさせたまひつる木曾殿をば、三浦の石田次郎為久が討ちたてまつりたるぞや。（平家物語）

⑦ なにがしかがしといふいみじき源氏の武者たちをこそ、御送りに添へられたりけれ。（大鏡）

⑧ しかるを忠盛備前守たりし時、鳥羽院の御願、得長寿院を造進して、（平家物語）

⑨ え恥ぢあへたまはず。いづれの御方も、我、人に劣らむとおぼいたるやはある。（源氏物語）

⑩ 三年来ざりければ、待ちわびたりけるに、いとねんごろに言ひける人に、（伊勢物語）

⑪ あくれば五日あかつきに、せうとたる人、ほかよりきて「いづらけふのさうぶは（蜻蛉日記）

⑫ 清盛公いまだ安芸の守たりし時、安芸の国をもつて、高野の大塔修理しゆりせられけるに、（平家物語）

⑬ 椎柴・白樺などの濡れたるやうなる葉の上にきらめきたること、身にしみて、（徒然草）

⑭ 中に、十ばかりにやあらむと見えて、白き衣、山吹などのなえたる着て、走り來たる女子、（源氏物語）

⑮ 御堂の東のつまにもあまた立ちて、向ひあひたれば、内へ逃げて、（宇治拾遺物語）

(11)	(6)	(1)
(12)	(7)	(2)
(13)	(8)	(3)
(14)	(9)	(4)
(15)	(10)	(5)

【古典文法 助動詞「たり」識別①】解答

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

① と言ふに、猛く思ひつる造麻呂も、物に酔ひたる心地して、うつぶしに伏せり。（竹取物語）

② わづかに一人二人なり。朝に死に、夕べに生まるるならひ、ただ水の泡にぞ似たりける。（方丈記）

③ 何と言ふべき言の葉もおぼえぬに、折しも、ゆふつけ鳥声々に鳴き出でたりけるに、（今物語）

④ 父たらばと言ふとも子以て子たらばあるべからず（平家物語）

⑤ やうやう白くなりゆく、山ぎは少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。（枕草子）

⑥ 聞こえさせたまひつる木曾殿をば、三浦の石田次郎為久が討ちたてまつりたるぞや。（平家物語）

⑦ なにがしかがしといふいみじき源氏の武者たちをこそ、御送りに添へられたりけれ。（大鏡）

⑧ しかるを忠盛備前守たりし時、鳥羽院の御願、得長寿院を造進して、（平家物語）

⑨ え恥ぢあへたまはず。いづれの御方も、我、人に劣らむとおぼいたるやはある。（源氏物語）

⑩ 三年来ざりければ、待ちわびたりけるに、いとねんごろに言ひける人に、（伊勢物語）

⑪ あくれば五日あかつきに、せうとたる人、ほかよりきて「いづらけふのさうぶは（蜻蛉日記）

⑫ 清盛公いまだ安芸の守たりし時、安芸の国をもつて、高野の大塔修理しゆりせられけるに、（平家物語）

⑬ 椎柴・白樺などの濡れたるやうなる葉の上にきらめきたること、身にしみて、（徒然草）

⑭ 中に、十ばかりにやあらむと見えて、白き衣、山吹などのなえたる着て、走り來たる女子、（源氏物語）

⑮ 御堂の東のつまにもあまた立ちて、向ひあひたれば、内へ逃げて、（宇治拾遺物語）

① 完了	② 存続	③ 完了
④ 断定	⑤ 存続	⑥ 完了
⑦ 完了	⑧ 断定	⑨ 存続
⑩ 完了	⑪ 完了	⑫ 完了
⑬ 存続	⑭ 完了	⑮ 完了